

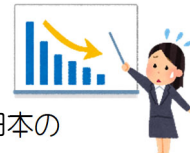


12月上旬、息子の結婚式でモーニングを着ることになりました。当日はいろいろな人に挨拶するからと、結婚式前の1か月はなるべく人混みにはいかないよう感染症対策には気をつけていたのですが、モーニングの予約については少しうっかりしていました。(*_*)黒ではなくシルバーのベストを予約していたので、お腹の白さと背中黒さが強調されてしまい、僕の体形とあいまって、すっかりペンギンになってしまいました。そーいやペンギンは「人鳥(じんちょう)」と表記することを、鏡を見て思い出しました。(-_-)トホホ



さて、総務省が11月30日に公表した2020年国勢調査によると、経済活動の主な担い手となる**日本の生産年齢人口**(15~64歳)は、なんと**5年前の前回調査から約226万人減った**とのこと。

226万人といえば、我が故郷・宮崎県全体の人口が約106万人なので、宮崎県丸ごとの人口の2倍以上の生産年齢人口がこのわずか5年で減っていることになります。



また、12月17日、日本生産性本部は**日本の労働生産性**の国際比較を公表しました。それによると、日本の一人当たり労働生産性、さらに1時間当たり労働生産性ともに、OECD加盟国の中の順位を下げています。現役世代といわれる生産年齢人口の絶対数が著しく減り、かつ労働生産性も低下しているということであれば、この先に不安を覚えています。

一方、生産年齢人口にあたらぬ高齢者が増えている分、総人口は5年前から約94万人しか減っていません。医療や年金といった日本の社会保障は「**世代間扶養**」という考え方をベースにしている為、働く現役世代が社会保険料等を担いますが、このまま高齢化が進み現役世代の絶対数が減ると、現役世代一人当たりの負担がとんでもなく重くなっていくことになります。



今、高齢者等の労働力化の促進とともに、一人ひとりの労働生産性の向上が国家的命題となっています。残業時間を減らすことや休日・有給休暇の取得を増やすことに焦点が当てられがちですが、「働き方改革」は職場単位での生産性の改革(見直し)なしでは、意味をなしません。

「**カモメになったペンギン**」(ジョン・P・コッター他著、藤原和博訳、ダイヤモンド社)という本をご存知でしょうか? ペンギンたちがずっと何不自由なく暮らしてきた氷山が、実は内部から溶けてきていることに1羽のペンギンが気づきました。誰も相手をしてくれない中、その話に耳を傾けたリーダーが、空を飛んで次々と安住の地を探すというカモメの話の参考にして、プロジェクトチームを編成し、これまでの習慣を見直したり数々の困難に立ち向かったりしながら、**未来のビジョンを共有**しやがて大移動を実現するというペンギンたちの物語です。その後、ペンギンたちのコロニーはますます成長を続けたと物語は結びます。そんな未来を創造していくペンギンなら、僕がペンギンになるのも悪くありません。(^_^)

「**夫婦生活は長い会話である**」と言ったのは**ニーチェ**ですが、会社においても会話は大事ですね。新しい年が始まるにあたり、経営者と社員一人ひとりが、**なんのためにこの会社は存在するのか**、その為は何をすべきか話し合っ**て、未来へのビジョンを共有**されてはいかがでしょうか。意欲的に前向きにやる仕事と、「やらされる」仕事は、おのずと効率が変わります。未来があればこそ人は頑張れますし、受け身でやる仕事はミスも増えて生産性を落とすことも多いと思います。



僕が結婚した時、僕の両親は結婚して30年だったことを覚えています。偶然なのですが、長男が結婚した今年、僕も結婚して30年になりました。不思議な気もしていますが、人の命というのはそんなふうは何十年も何百年も糸のように未来に向かって紡がれていくものなのかもしれません。間違いなく未来はやってきます。



そして紡がれていくその未来は、自分たち次第で変わります。会社の未来も。結婚した2人の未来もね。(^_-)-☆



未来から令和時代のみんなに感謝しに来たよー